



都市再生 機能が変われば ライフスタイルが変わる

— 六本木ヒルズに見る都市生活のあり方 —

都市のあるべき姿。目指したのはウォーキング・ディスタンス

「1年間に約16日分のフリータイムをプレゼントします」そう言われたら、その時間をあなたはどう使うでしょう。家族や恋人と過ごしますか、それとも趣味を充実させますか。では、「あなたは一生で約617日分の時間を無駄遣いしている」そう言われたら、どう感じますか。

1日につき往復2時間かかっていた通勤時間を、30分に短縮できたら余った時間の合計は、1年間に390時間＝16.5日になります。言い換えれば、その余分な時間を、22歳で就職して60歳で定年するまでの38年間に換算すれば14,820時間＝617.5日になるのです。

もうひとつ、興味深いデータがあります。東京のオフィス街と呼ばれる港、千代田、中央、新宿の4区の合計約6,000haの地域では、昼間、約300万人の人々が働いています。しかし、夜

間人口は約50万人。つまり、ほとんどの人は、遠方から毎日、通勤電車に揺られて通っているのです。

一方、ほぼ同じ広さを持つニューヨークのマンハッタンでも、約300万人が働いています。東京との大きな違いは、夜間人口が150万人もいること。言ってみれば、オフィス街と住宅地が同居しているということです。

今日、世界中のムーブメントは、都市を中心に動いています。魅力的な都市には、優秀な人材や価値のある情報、資本が自然に集まり、それが融合してビジネスやカルチャーなど、さまざまな分野で新しい流れをつくりだす。さらにその流れを呑みこんだ都市がいくつも集まり、より新しい付加価値を持った都市へと進化していくのです。

「ゆとりのある豊かな生活を送りたい」と誰もが思う理想の都市生活の実現を目指して森ビルが作りあげた、

都市再生の理想形「六本木ヒルズ」。目指したのは「ウォーキング・ディスタンス」です。11.6haの広大なエリアに4棟、約800戸のレジデンスと地上54階のオフィスビル。さらに美術館、展望ギャラリー、会員制クラブ、アカデミーといった複合文化施設や放送センター、シネマコンプレックス、ホテル、ショップやレストランが共存する「ひとつの街」が、この4月25日に誕生します。

職住近接を実現するのはもちろん、アートやエンターテインメント、ショッピング、グルメなど、暮らしに密接に絡んださまざまな「楽しみ・喜び」を融合させ、都市生活におけるカルチャーを発信する「文化都心」と呼ぶにふさわしい街。都市の機能が変われば、ビジネスはもちろん、そこに生活する人々のライフスタイルも変わるはず。オープン直前の「新しい暮らしがある街」を、あなたも体験してみてください。

“彼” 42歳 外資系企業に勤める会社員の場合

「ここは本当に六本木なのか？」

約6年間の海外勤務を終え、久しぶりに訪れた六本木の変貌ぶりに、彼は困惑の表情を隠せなかった。驚いたのは風景の変化だけではない。人々のライフスタイルが先日まで勤めていたニューヨークに、とてもよく似ているのだ。

彼は東京が嫌いだった。地方出身の彼は、都会の生活に憧れて、東京の外資系企業に就職した。だが、住むほどに、そのまとものない街並みに失望せざるを得なかった。無軌道に走る道路に沿って建ち並ぶ、景

観を無視したビルやマンション。街の統一感など感じられず、彼の目には、ただ雑然としているように見えた。そんな思いにかられる時、思い出すのは、学生時代の夏休みを利用したアメリカ旅行で、もっとも印象に残った街・ニューヨーク。転職の辞令があったときも、躊躇なくアメリカ行きを決めた。

縦横に整然と整えられたストリートに沿



って林立する、マンハッタン of 巨大なオフィスビル群。一瞬、丸ノ内を連想するが、すぐにその違いに気付く。建ち並ぶ飲食店や高級ブティック、雑踏のなかの映画館や劇場。それぞれの通りが独自の個性を持って共存し、そして、そのなかを小学生が楽しげに学校に通い、老夫婦が仲むつまじくウインドショッピングを楽しむ。皆がそこでの生活を、それぞれのスタイルでエンジョイしているのが、肌で感じられた。

一番驚いたのは、お昼時、アメリカ人の同僚に奥さんがランチを届けにくる光景を見た

時だ。街のなかにオフィスがある。生活のなかに仕事がある。東京では考えられない光景だ。街はもちろん、そこに暮らす人たちのライフスタイルに共感を覚えた。彼が憧れた都会生活のイメージは、ここにあった。

彼は、アメリカでの任期が終わり東京勤務を言い渡された時、残念でならなかった。また、あの東京に戻るのかと思うと



高層階からの展望



六本木ヒルズ森タワー

気が滅入って仕方がなかった。後ろ髪を引かれる思いでマンハッタンを後にしたのだ。

深夜、六本木ヒルズ森タワーの最上階の展望ギャラリーに上った彼は、東京の街を見下ろしながら考えていた。いまだ雑然とはしているが、遠く点在する巨大なビル群に、グローバル・ビジネスに挑戦する新しい息吹を感じる。そして足下に広がる、生まれ変わった六本木の街並みには、その中心になるべき街の胎動がある。もちろん街並みだけではない。行き交う人々が、そのざわめきが、自分の知っている日本とは明らかに違う。そして、似ているとはいえ、もちろんニューヨークとも違う。全く新しい何かが、今、生まれようとしている。

「ここから世界に通用するムーブメントを興してやる」。

彼のそんな思いは、はからずもこの街・六本木ヒルズが指し示しているものと等しいのである。

理想のビジネスステージとは

日本の都市は、はたして豊かなのでしょうか。また、現在求められているビジネス環境に、マッチしていると言えるのでしょうか。これは、今の日本に立ち込めている閉塞感にも繋がる、重大な問題なのです。

“ゆとりある生活”が叫ばれて久しいですが、「家族と過ごす時間が増え

た」「地域コミュニティに参加している」との声は、なかなか聞こえてきません。では、オフィスが遠く離れた街にあるのではなく、生活とともにあったらどうでしょう。もちろん、自己の努力は必要でしょうが、真に豊かなライフスタイルに一步近づくことは確かです。

ビジネスステージとして、今、求められているのは、高度かつ単一に研ぎ澄まされた環境ではありません。それ

は、さまざまな機能が交じり合う器と、そしてあらゆる方向に張り巡らされたネットワークなのです。なぜなら、街に求められる最大の機能は、今や工業を主体とした“生産”ではなく、サービス業を中心とした“情報発信”に大きく変化してきているから。そしてその中でビジネスチャンスを見逃さないために必要なのが、実は豊かなライフスタイルが生み出す“ゆとり”なのです。

“彼女” 29歳 Webクリエイターの場合

中堅出版社で編集アシスタントとして過ごした彼女の3年間は、仕事に忙殺され、休みもままならない毎日だった。仕事を終え自宅に帰り着くのは夜中、映画はレンタルビデオ、絵画は本の中だけという生活にいつしかあせりが生まれていたのも事実。



けやき坂コンプレックス(ヴァージンシネマズ六本木ヒルズ)



ヴァージンシネマズ六本木ヒルズ

「せっかく東京にいるのに、これじゃなんにもならない…」

そう考えてIT系の企業に転職した彼女の生活は一変した。

彼女のオフィスがある六本木ヒルズは、一つの街の中におしゃれなショップやシネマコンプレックス、美術館が混在。まさに、その上で仕事をしているようなもの。仕事を終えてエレベーターを降りれば、そこがもう刺激に満ちた街だ。しかも夜、遅くまで開いているので、残業で遅くな

っても余裕をもって楽しめる。もちろん“楽しみ”も大切だが、それだけじゃない。

転職して1ヵ月、精神的にゆとりのできた彼女は、あることに気付いた。

それは、この新しく生まれた「街」の中で働く人たちに共通する、イキイキとした躍動感。なぜ皆、自信に溢れた表情をしているのだろうか。

実は、それは彼女自身にも当てはまること。今まで以上に意欲的になった彼女は、オフィスの上層階にあるアカデミーヒルズのセミナーにも参加するようになった。テレビでよく見かける経済評論家が目の前で熱心に講演している。思いもよらなかった他業界の人と知り合いになる。参加している人たちは、年配から若者、服装もさまざまだが、目の輝きだけは共通しており、彼らとの交流が新しい刺激となっていた。

「文化ってというのは、魅力的な街の機



森美術館

能と、そこに集まる人たちが創造していくもの。文化都心ってこのことを指しているんだ。

充実感を取り戻した彼女。果たして次は、何に挑戦していくのだろうか。



六本木ヒルズクラブ



六本木アカデミーヒルズ・ライブラリー

「文化都心」が生み出すものとは

“手を伸ばせば、知識や刺激がいつもそこにある”ということは、文化を育むために必要不可欠な条件です。そして、日本の芸術や文化の世界では、この“気軽に”“身近に”ということが、ないがしろにされてきたよう

な気がします。肩肘を張らなければならぬようなものからは、決して、活発な情報発信は生まれません。世界最先端のアートも、コンベンションやフォーラムも、自分の近くにあり、その中に身を置き、楽しみながら参加してこそ、新たな形で昇華していくのではないのでしょうか。

世界の“知”が、そして“美”が六本木ヒルズに集まり、そこに働きに来る人が、遊びに来る人が、そしてそこで眠る人が、肌で感じる刺激。受ける“何か”。そして、この“何か”が、新たに集約され世界に向け再び発信される。これが“カルチャー”と言うものなのかもしれません。

“45歳主婦”の場合

20年数前に結婚した時から、このあたりに住んでいます。これまでの六本木は、若者やサラリーマンの遊び場という、華やかな夜の街の印象が強かったと思います。結婚当初は、週末に主人と出かけることもありましたが、子供ができてからは次第に足が遠のいていました。

友人は「六本木に住んでいるなんてうらやましい」と言っていました。実際は、道路が狭いわりに交通量が多く、違法駐車の手も多く、火事や大きな地震があったら消防車も通れないのではと思うほどでした。公園も少なく、小さな子供を連れたファミリーが、安心してのんびり暮らせるような雰囲気ではなかったと思います。

しかし六本木ヒルズができてから、雰囲気がガラッと変わりました。

けやき坂通りの並木道やビルの屋上、毛利庭園の辺りには緑が多く、エコロジーの観点では地球温暖化防止にも貢献しているのではないのでしょうか。それにコージェネレーションとって、都市ガス

を使って電気と熱を同時に取り出す効率的なシステムを取り入れていて、街全体で省エネルギーになっているそうです。

それに、敷地がこのように広いので、大きな災害があったときには安心です。池の周りが公園になっているので、寛げる場所もできました。近所のご婦人達が、ベビーカーを押している姿をよく見かけるようになりましたし、災害時には一時避難場所としても利用できるそうです。どうりで広いはず。防災用品や非常食料が置いてある備蓄倉庫もあるそうで、「災害の時には、ここに逃げてくれば安心ですから、ご家族の集合場所にしておいてくださいね」と言ってくれたので、ほっとしました。

最初は、娘と買い物ができるブティックが近くにできて嬉しいとか、家族で食事が楽しめる素敵なレストランが増えて



六本木けやき坂通り

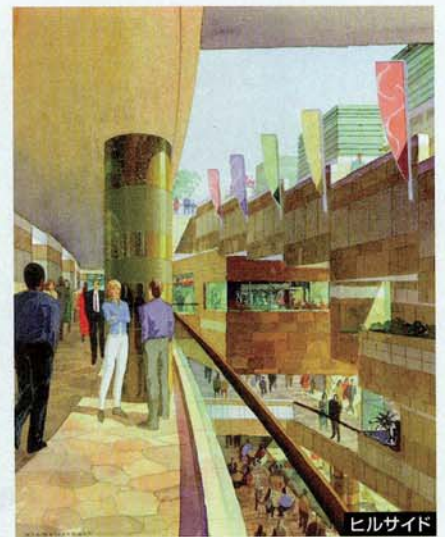
よかったなどと気楽に喜んでましたが、それだけじゃなかったんですね。

地球環境への配慮や安全性の高い防災設備、安心して楽しめる商業施設など、いろいろな要素を通じて、新しい街の中だけではなく、周辺の住民に対する配慮も行き届いていて、今では、ここに住んでいてよかったと思っています。

こうした街がいろいろなところでできれば、東京ももっと住みやすくなるのではないのでしょうか。



毛利庭園



ヒルサイド



さくら坂公園

24時間眠らない街 六本木ヒルズ 4月25日OPEN

テーマは職・住・遊、そして国際文化都心 新しい暮らしのスタイルが生まれる!



六本木ヒルズ森タワー・エントランス



六本木ヒルズアリーナ



けやき坂テラス

けやき坂コンプレックス

ヴァージンシネマズが運営する9つのスクリーンのあるシネマコンプレックス。週末には明け方まで営業し、六本木でしか上映できないような国際的な作品なども上映する。地下2階から地上2階には、充実したブティックやレストランも並ぶ。

六本木ヒルズレジデンス

43階建の超高層から6階建の低層まで、4棟で構成されるレジデンス。耐震性能や新しい住戸プラン、付帯施設で、外観から内装までこだわりぬいたデザインと、ホスピタリティあふれるサービスを提供。

六本木ヒルズアリーナ

六本木ヒルズ ゲートタワー

麻布十番

六本木けやき坂通り

四季の彩りを演出する街路樹や花壇が映える、東西約400mの緩やかな坂道。有名デザイナーが趣向を凝らしたベンチを配した沿道には、ショップやカフェ、レストランが建ち並び、ゆったりとした時間が楽しめる。

テレビ朝日

最新のデジタル放送設備を備えた、テレビ朝日の本社ビル。6層吹き抜けのアトリウムは一般にも開放されるほか、グッズショップやカフェもオープンする。

毛利庭園

旧毛利邸の面影を残した緑溢れる日本庭園。水面に移る都会の風景を愉しみながら、落ち着いた雰囲気での散策が楽しめる。

環状3号線

けやき坂テラス

けやき坂通りに面したSOHO対応可能なオフィスビル。低層部にはブティックも並ぶ。

グランドハイアット東京

客室数390室を誇るハイアットインターナショナルのフラッグシップホテル。2,800㎡の巨大宴会場をはじめ、10のバーやレストランが充実した、格調高いホテルだ。

森美術館 (森アーツセンター内)

森タワー最上層に位置する。現代美術を中心に、建築、デザイン、ファッションなど、さまざまな分野を横断した展示を行う。国内では珍しく夜間も運営している。

六本木ヒルズ森タワー

高さ238mの超高層オフィスビル。国内最大級のワンフロア約4,500㎡の無柱空間を実現。超高速ネットワーク、最新のセキュリティなど、ビジネスのため最高の環境を実現したオフィスビルです。

ヒルサイド

毛利庭園の緑を見ながらショッピングやグルメが楽しめる、セミオープンな空間。イベントや屋外劇も可能な六本木ヒルズアリーナに導く、オリエンタルテイストを盛り込んだストリート。



グランドハイアット東京



東京シティビュー(森アーツセンター内)

ウェストウォーク

森タワー、ホテル、シネマコンプレックスに挟まれた4層吹き抜けのガレリア空間からなる商業スペース。ガラスルーフに覆われた、自然光に溢れるエリアでは、レストランを中心にオフィスワーカーにとっても魅力あるお店がいっぱい。

メトロハット

地下鉄六本木駅と直結したメインゲート。ヨーロッパの都市のターミナル駅をイメージした地下道には、カジュアルビューティースタイルを提案するショップが建ち並び、日常のオアシス空間を演出する。

ハリウッドビューティプラザ

美容専門学校を併設したハリウッドの新本社ビル。地上2階と地下2階にはレストランやブティックもある。



ハリウッドビューティプラザ

